



昭和55年6月1日
編集・発行
岡崎市教育委員会

歓声一番

山の中へ散った

竹やぶのトンネルをぬけ

蛇行する畦道へ

けわしい細道に連なつて

白い列が続く

ここは二キロ地点

みどりの香り

鳥のさえずり

あと一息で頂上だ

ひとり、またひとり

大きく息をはずませて

足音高く駆けぬける

朝日にかがやく若葉の山に
きょうも

常中健児の意気は高らか



(身体鍛練コースで鍛える生徒一常磐中)

— 教育随想 —

自信と謙虚さ



徳永尚子

(旧性 深津)

一九六五年四月、世界卓球選手権がユゴスラビアで開かれ、私も日本代表として参加した。中国の選手は文化大革命をひかえて、毛語録を片手に大活躍した。団体戦で中国に男女とも敗れたが、個人戦でうまく決勝まで進出した私は、団体戦で敗れた中国のエース林選手と優勝をかけて戦うことになった。団体戦の時と同様に、鉄壁のカットを誇る林選手は私が全身の力を振りしほって打つスマッシュも、糸を引く様な正確なカットで返球してくる。打つても打つても返される。そのうち呼吸の乱れた私の方が先にミスをするという試合運びとなった。実力的に一枚上の相手に私が勝てる方法は唯一つだけ持久戦に持っていくことだった。私が攻撃をしない限り、ラリーは50本も60本も続く。そして、双方ちよっとした相

手のミスをねらうという、技術というより、精神力の勝負となった。相手より一球でも多く返球したいと唯それだけを考えた。新聞記者によると百本近くのラリーもあったという。結局フルセットの大接戦の末優勝することができた。苦しい試合の中で私を支えてくれたものは、日本での最終合宿で千本連続打という練習をやり遂げたという自信であった。これは千本をノーミスで打つ練習で999本でミスしてもやり直してある。何回かやり直し、三日かかってやっとできたのだった。腕は痛いし、目は充血するし私には一番いやな練習の一つだったけれども、この練習が暗れの檜無台でしかも一番大事なときに、私を支えてくれたのである。相手に敗けないだけの練習をしているという自信に支えられて、ともし

れば楽になりたいため、無理を承知で攻撃に移りたい気持を抑えることができたのである。勝負には耐えることに勇気のある場合もある。

私は現在、結婚によって卓球とは無縁な料亭という家業を手伝っているが、職業柄、企業のトップに立つ人、政治、教育に携わる人、ときには有名人など、いずれにしろ、周囲に対して非常に影響力の多い人々に会う機会に恵れているが、その浅い経験の中から感じることは、回りの人々から尊敬される人、魅力ある人というのには、自信と謙虚さとをバランスよく兼ね備えているということである。卓球の世界を振り返ってみても、やはり一流選手と言われる様な人は皆この様な人々だったと私は思う。卓球に対して相手に対してはあくまでも謙虚で貪欲で、しかも自分の技術に対しては自信を持っていた。不測の裏づけによって。

そういう心がけの人でなければ一流選手になれないと言えるかも知れない。それが、社会、企業でスポーツ選手が歓迎される理由だと思ふ。

我が家にも、小六、小四の子供がいるがこれからの多くの経験の中から、何か一つ本物の自信が持てるように頑張っしてほしいし、又失敗も多くなると思うが謙虚な気持で反省できる人になってほしいと自戒をこめて強く思う。

(香山中出身。ユーゴスラビアにおける世界卓球選手権大会で優勝)

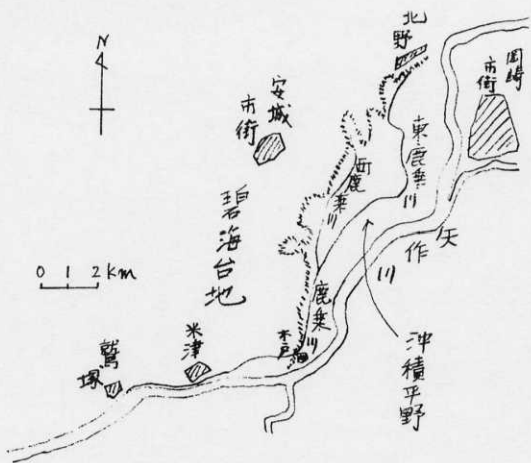


メキシコの日本語

大須賀明彦

カナダとアメリカの国境にはなかったが、メキシコとの国境には見渡す限り有刺鉄線が張ってあって、カナダとの関係よりは緊張した関係がうかがわれる。その国境を越えるとメキシコ。町は、たった一本の国境という線がこども変えてしまふのかと思うほどの変わりよう。そこへ観光をかね買物に出かける。

町につくとすぐ客引きにつかまる。「ニホンジン、チョットマテ、トモダチ、ミルダケ、ミルダケ、ヤスイ」そこから始まって怪し気な日本語があふれ出てくる。ガイドに注意されていないければうっかり買ってしまふところだけれども予備知識があるからすぐに飛びつかない。一四五ドルの毛皮のコートが二十秒もすると一〇〇ドルになる。首を横に振ると、首を下げさにすくめてとてもまからぬと言う。こんなことが数分続くと。「ハラキブライズネ」と言つて五十ドルだと言う。それを聞き流して帰ろうと



— ふるさとの山河 —

鹿乗川

鹿乗川は、西鹿乗川・東鹿乗川・鹿乗川の三つの幹線水路を持ち、矢作の北野を発し、碧南市の鶯塚町地内で矢作川に流入する用排水河川である。流域は、古くから福地と呼ばれる、碧海台地と矢作川に挟まれた四三〇三ヘクタール程の沖積低地である。

また、鹿乗川は、矢作川の流れが定まっていなかったころ、その氾濫原を分流していた流れの一つであるといわれ、低湿地の重要な排水路の役割を果たしてきた。さらに、これまでたびたびの改修工事がなされる中で、用水路としても、農家の人々によって利用されてきた。

現在、牧内、鳥取の堰をはじめ、鹿乗川のところどころに、鹿乗川を用水に転じた堰を見ることができ、堰で溜めた水で周辺の田が潤されたのである。しかし、用水としての利用も、北野用水の水量の増加に伴って減少し、現在は低地の悪水を集めて流す排水路として性格が強くなっている。

鹿乗川の改修は、度重なる水害に困った農民たちの切実な思いから行われていた。鳥坂町の神明社に、大正八月五月に建立された鹿乗川改修紀功碑がある。この碑文に「……三邑ノ悪水之ニ集注シ溢テ良田ヲ害スルコト最モ甚シ識者之ヲ憂ヒ改修ヲ企劃スル議アリ」と記されており、改修を願う人々の気持ちがかかる。

また、時代は溯って、文政十一年（一八二八）に洪水があり、鹿乗川下流の村々に大被害を与えた。これをきっかけとして、鹿乗川改修の計画が桜井村から小川村へ申し込まれた。小川村では相談の結果、文政十二年（一八二九）一〇月に『乍恐奉願上候口上之覚』という願書を岡崎藩に提出している。



(矢東小 内田明夫)

この願書の内容は、小川村の田畑が低い土地にあり、大雨で矢作川が出水すると、逆流水や上流からの水で田畑が浸水する。こんなことが三年も続き、村も大層困っている。鹿乗川の矢作川への流入口を、米津村まで下流に移せば、矢作川の水が八〇九尺（二、五メートル）増えても大丈夫である、といったものである。

しかし、改修の結果他地域へ土砂の堆積など、逆に被害をもたらすこともあり、小川村から発案された改修工事も幾多のうよ曲折を乗り越えて、天保九年（一八三九）やっと完成をしている。

ちよつとそこまで

四宮和子

午後八時を過ぎたフランスの青い空に心はずませ到着。

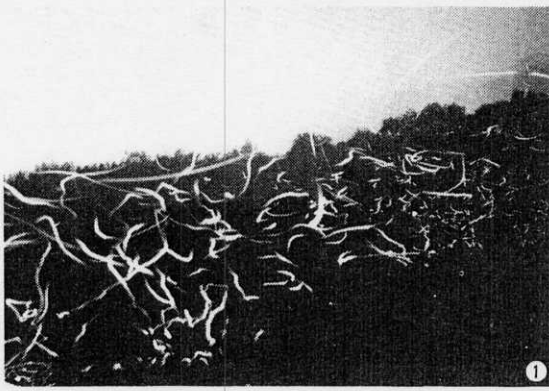
豪華絢爛なりドのショーに感激することなくひたすら舟をこぐ。（時差の為）それにしてもヨーロッパは遠い。ちよつとそこまでなんて、甘かったかなあ……。

フランスでの第一日目。

ベルサイユ宮殿見学予定。眠い目をこすりながらホテルのロビーに行ったが外人ばかり。ドキッ。快いベッドで眠りこけ一時間のちこく。万事休す。これからの日程は聞いていないのだ。そこへ一行の塔乗員、申し合わせたようにさっそうと登場。やれやれ。しかたがないので自由行動と洒落こむ。

とある公園で、仏女性づれの日本人とおしゃべり。つれの仏女性は日本人と結婚する為、練習がてら日本料理を食べに行くとところだそう。えっ、言葉もしゃべれず、何もかも違う日本へ、彼の愛だけを信じてお嫁にくるとは、何と勇敢な。私にその十分の一でも分けてほしいが、爪の垢をもらいそこね残念無念。もう少し近ければ、ちよつとそこまで」と出かけることもできようが。地球は狭くなっていることを実感した旅だった。（井田小）

すると、カバンをつかんで引きもどそうとする。こういうときはもつとまかる。買う気はないから、それを振り切つて帰ろうとしたら「ケチ」。（連尺小）



1

21 ほたる

岡崎再見

草の葉を落つるより飛ぶ螢かな 芭蕉
 「ホーホーホタル来い」と歌いながら、竹笹やほうきを手に、川岸や田んぼへ水辺のホタルを求めて歩くのは子供だけの楽しみではない。

昭和十年、国の天然記念物指定を受けて脚光を浴びた美合町の「生田ボタル」ではあった。だが、戦後間もない二十三年、生田ボタル保存会が結成され、名鉄美合駅頭にホタルのシンボルタワーが建立されたり、ホタル音頭が作られたりして、ショーとしての色あいの濃かった祭りによる乱獲からその数も減少の一途をたどった。

そこで当時、美合郵便局長であった栗



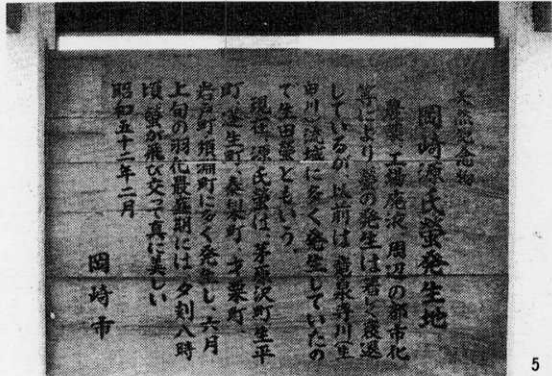
2



4

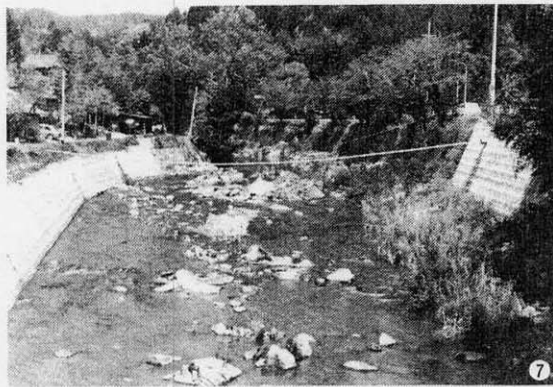


3



5

- ① 夏の夜を乱舞する螢が描く夢幻の軌跡。
- ② 暗い夜空をピカリー／＼と光の尾をひいて飛び交う螢は夏の風物詞であり、その姿の中になつかしい想い出を抱く人も数多い。この写真は昭和二十七年の螢祭。
- ③ 螢の絶滅を防ごうと昭和二十三年に生田螢保存会が結成された。これはそれから十年後の生田螢保存会による記念大行進。
- ④ 源氏螢発生地に立っている案内板の柱は石で造られており、今も当時と変わらないが板面の文に四十年の歳月と社会の変遷を見ることができ。
- ⑤

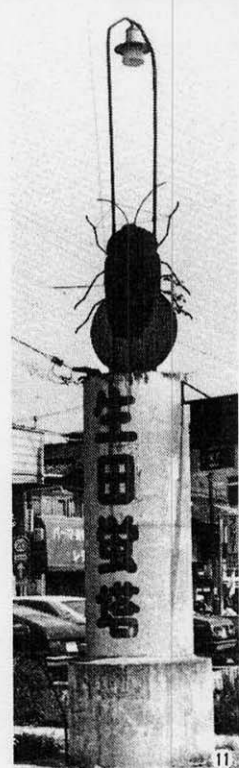


田俊一郎氏が中心となって、人工飼育の研究を開始するなど、保存のための保護活動に努力し、三十年ごろから一時復活をみた。

だが、だんだん村もひらけ、急速な住宅地化の伸展とともに生活汚水や河川の改修などで、再び絶滅の危機に見舞われるようになった。

河合中学校が人工養殖に立ちあがったのは、この事態が契機であった。昭和四十一年のことである。

その後、男川・乙川への幻虫放流も毎年おこなわれ、「ホタルのふるさと」の復活をもたらし、今や岡崎ゲンジボタルの名を全国に馳せるに至ったのである。



⑧ 「ほたるの里」といわれる須測町地内の乙川。ここは、今でも夏にはほたるが川面を美しく彩る。整備された川は螢には苦手とみえて、今はほとんどその姿を見せなくなった生平町地内のかつての「ほたるの里」

⑦ 橋のたもとで目をとじると、光の軌跡と、笹の葉を持ってそれを追いかける子どもたちの声が聞こえてきそうな生平町学校橋周辺。



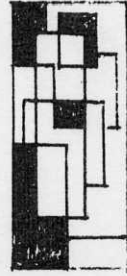
⑩ 住みにくい川から螢を守ろうと作った美合小の螢のマンション。

⑪ 源氏螢の飛び交った当時をほうふつさせる螢のシンボルタワー！

⑨ 少なくなっていくほたるを保存していこうと真剣に取り組んでいる中学生たち。



教育日々



この子らと

羽根小 高村むつみ

家庭訪問でS子の家を訪れた時、母親は「先生たちはいいわね。二年でほうり出せるんだ



から、私は一生あの子のそばに

いてやらなくてはならない。」とかなりはげしい口調で言われた。

私は今年初めて特殊学級を受け持たせてもらった新米教師。情緒障害児五名、精薄児四名を二人で担任している。S子の障害

は重く、母親は精神的な疲労から極度の学校不信で、学校は何もしてくれないと思うと、何日でも何カ月でも学校に出さず家庭においておくのだという。

始業式の日、S子は初対面の私には口を開こうとしなかった。次の日、平均台を手をつないで渡った後、笑いかけとびついて

きた。三日目、私の手を引っぱっておしっこについてこいと

言った。一週間後、私のほほをペロツとなめて帰っていった。

毎日、わずかな、変化を見せてくれるS子にホッとしながら朝送ってきた母親と話す。

学校に行くのが楽しく六時に起きてしまうことや、帰宅後絵を描いたこと、「線路と電車を描いて、屋根の上にいるのぼり、雲までもとんでいる絵です。みんな絵描くの初めて見ました。」と話す母親の表情には家庭訪問で見た陰しはない。しかし一つ光が見えると望みはほとんど

を決めた時、「先生、四年の時、新聞係りがあつたよ。」

という子どもの声に男女各一名ずつ編集委員を決めたのが最初だった。

しかし、第一号が五月のゴールデンウィーク明けに発行された。無理もない。新聞係りの他に、学校の専門委員の活動、課

外クラブ活動と授業外の限られた時間の中で、かべ新聞の編集から作成の時間を見つけることは大変なことだ。

後期、学級会で新聞係りをどうするか問題になった。

「かべ新聞、一号が出たきりその後、ぜんぜん続かなかつたじゃあ。」

「新聞係りなんか、ほとんど仕事しなかつたからいらんやないか。」

「かべ新聞、一号が出たきりその後、ぜんぜん続かなかつたじゃあ。」

「新聞係りなんか、ほとんど仕事しなかつたからいらんやないか。」

「全員が当番制で、みんなで作ればいいと思う。そうすれば係りだけにまかせておかなくてすむよ。」

結局、六グループで、毎週、順番に作るようになった。

今、新聞を読み直して見ると子供たちの様子が思い出されてとてもおもしろい。

「ガラスの人たちに大人になっ

たらどんな人になりたいか聞きました。一位、将棋の棋士、二位、パン屋さん、三位、マンガ家(男子)。」

なるほど、将棋は男子の中で大ブームだ。そういえばA君は東京の将棋大会まで出かけたことがあったな。パン屋さん?これは国語でパン屋のしろちゃんをやっている最中だったな。O君のマンガが少年チャンピオン

のつたのも最近のことだな。かべ新聞はクラスの思い出のいっぱいしまったアルバムである。これからも続けていきたい。

給食の時間に、全員がエプロンをつけ、彼らなりに一生懸命準備をし、食べる。黙々と食べる。その姿をじっと見ていると目の奥がジーンと熱くなって、身も心も大きくなあれと祈らずにいられない。A男の口の中に

「かべ新聞、一号が出たきりその後、ぜんぜん続かなかつたじゃあ。」

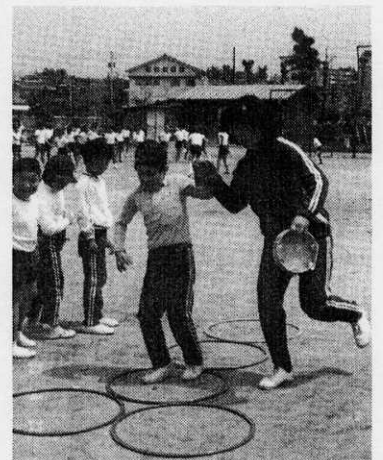
「新聞係りなんか、ほとんど仕事しなかつたからいらんやないか。」

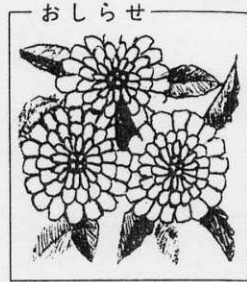
「全員が当番制で、みんなで作ればいいと思う。そうすれば係りだけにまかせておかなくてすむよ。」

結局、六グループで、毎週、順番に作るようになった。

今、新聞を読み直して見ると子供たちの様子が思い出されてとてもおもしろい。

「ガラスの人たちに大人になっ





おしらせ

第7回

岡崎市民大学の開講

岡崎市民大学も第七回を迎えることになりました。今回も市民皆さんの御期待に応え、著名な講師をお招きして、左記のように開講いたします。

◆期日と講師

①7月13日(日)

愛知県立芸大教授

文学博士

清水 孝之氏

蕪村 と 私

②7月20日(日)

分子科学研究所教授

理学博士

広田 栄治氏

分子・その形とふるまい

③8月3日(日)

京大霊長類研究所長

理学博士

河合 雅雄氏

(寄贈刊行物・資料等)

◇指導の手引 第四集

岡崎市教科指導員の会、A5版 七二頁

◇野麦峠から現代つ子へ

岡崎市小中学校教職員組合

山本茂実講演記録、B6版 二四頁

◇学校事務職員とともに 鈴木隆俊、変形B6版 一一二頁

◇理解を確かにする文章表現

社会科学習の実践のなかで(五年)

緑丘小 近藤正義

ガリ版印刷 B5版

■教職員の県外研修

市費派遣による教職員の県外研修は、本年度で九年目を迎える。このほど55年度の計画が次のように決定した。

①参加者数

校長 一〇人 二泊三日

教頭 一〇人 二泊三日

教諭 二七〇人 二泊三日

(特別研修班幼稚園含む)

②研修参加の基準

校長 校長会の参加計画による。教頭 教頭会の参加計画による。教諭 各校の参加計画による。

③研修実施期間

6月から1月31日の間に実施

④特別研修班

会津若松・松江・南四国・彦根・野外活動の五班を編成

▽五月・緑丘小 表現 ことば

の力 一▽六月・岩津中 基礎学

力充実の方途 一▽九月・美川中

豊かな経験と情報処理能力を高

める指導 一十月・六ツ美中 基

礎学力を伸ばす指導 一奥殿小

自ら学びとる社会科学習 一愛宕

小 一考える力の開発をめざす学

習指導 一福岡小 一能力を伸ばす

学習のあり方 一十一月・男川小

一豊かな人間性を育てる書写指

導 一竜海中 一豊かな情操の育成

(文部省指定) 一連尺小 一生活

力を高める総合学習 一広幡小

一自ら学ぶ力を育てる学習指導 一

一十二月・矢作西小 一思いやり

のある子どもを育てる縦割り活

動 一未定 一南中 一進路指導 (県

指定)

■県教委指導主事の学校訪問

▽5月15日(木) 矢作中・義務

教育課瀬瀬主事 一5月30日(金)

教育課瀬瀬主事 一5月30日(金)

竜美丘小・保健体育課加藤主事

▽6月11日(水) 秦梨小・六中

小・教職員課定盛主事 一10月23

日(木) 山中小・義務教育課伊

庭主事 一11月20日(木) 大門小

義務教育課鈴木主事

■市教育委員の学校訪問

▽5月22日(木) 岩津小・大樹

寺小 一6月26日(木) 矢作南小

福岡中 一9月18日(木) 井田小
東海中 一11月27日(木) 常東小
常磐中 一1月29日(木) 羽根小
城北中

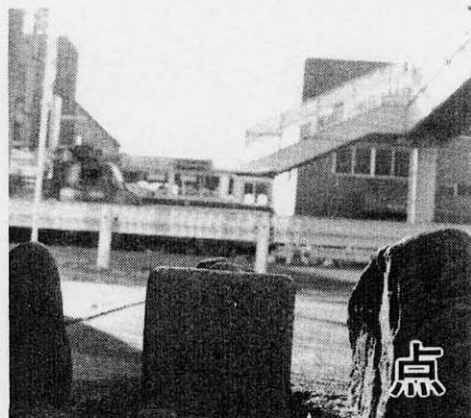
■指導主事訪問

美合小・岡崎小・六名小・三
島小・本宿小・奥殿小・細川小
矢北小・矢西小・六北小・甲山
中・葵中・河合中・六ツ美中

55年度月報編集委員

- ・横井 滋 (城北中長)
- ・佐々木秀芳 (竜谷小長)
- ・和出 昭夫 (六北小頭)
- ・畔柳 正弘 (河合中頭)
- ・柴田 健三 (大門小)
- ・成田 邦彦 (六ツ美中)
- ・平野 安世 (矢作北小)
- ・高橋 岩雄 (甲山中)
- ・大山 紀司 (香山中)
- ・清水 弥生 (根石小)
- ・加藤 憲尚 (竜美丘小)
- ・八田 昌子 (大樹寺小)
- ・竹内 昭次 (六名小)
- ・熊谷 満義 (南中)
- ・柴田 隆夫 (葵中)
- ・金子 一元 (竜美丘小)
- ・杉本 佳子 (東海中)
- ・野々山周次郎 (六名小)

水準点



所在地 岡崎市羽根町

国鉄岡崎駅北約百米、変型五差路南舗道上に写真のような石柱が二十センチほど顔を出し歩く人の足元を見つめている。

これについて何か話を聞こうと、近くの家二、三軒に入つて聞いてみる。「え、ほんなもんらんかったなあ。」と改めて出てきてながめ「今まで全然気がつかんかったがや」との答え。

水準点、No.867という文字を手がかりに今度は地理調査院にたずねてみる。これは二等水準点で、標柱のてっぺんにあるオヘソの頭のところが海拔十五米五十七糎七糎とのこと。また、一

●カット

城北中

小林彰

一

等と二等の区別は精度差で、一等は百分の一種、二等は十分の一種の精度を保ち、二軒ごとに設置されているが一号線等では杆表示の0.5ずつのところにも水準点が併設されているということも教えてもらった。尚このNo.867は昭和二十七年に調査され、昭和四四年の全国調査で修正をし、現在に至つており、舗道上で肩身の狭い思いをして小さくなつてはいるが地下ではグリ石の座布団の上に逆T字型をした形でどつかと腰をすえており、簡単には動かないようになってあるというのである。

この本を

- 野越えやぶ越え「医者」の旅 毎日新聞社 ￥ 880
- まぼろしの邪馬臺国 宮崎 康平 ￥ 1,400
- 文章作法 桑原 武夫 ￥ 980
- ことばの姿 外山滋比古 ￥ 980
- 敬語に強くなる本 鈴木 健二 ￥ 850
- 母乳語、離乳語、ほめことば 主婦の友社 ￥ 650
- 親鸞 増谷・遠藤 ￥ 950
- 侍 新潮社 ￥ 1,600
- 古代からの視点 PHP ￥ 1,200
- アメリカが日本を捨てる日 落合 信彦 ￥ 680

オーダーメイドはうまくできているもの。金の無いわれわれは大概に合う。でも考えてみると、体が何となく服になじませてきているようにも思える。

新学期から子ども達も教室に徐々に調和してきたこの頃、借りてきた猫でなく、せめて「ゆとりの時間」はレディーメードとはいかないものかと……問……?

しばらくぶりで卒業生に会った。来春は教員としておもしろい子供供たちとはしゃぎ回りたいと話していた。

十年一昔という。一昔半前のボクも彼女と同じ思いで教壇に立った。今もその気持ちはあせてはいないと思っているが、それにしても教え子が教壇に立つようになるとは……。トシを感じるなあ。

シオシア

「明日ありと思う心のあだ桜 夜半に嵐の呼かぬものは」

入学式だ、新学期だと時間に追われている中にもう六月、一年の半分が終った。「オイッ! オアシスの原稿はまだか。」

「あ、スママセン。今日中に……今すぐ……はい。」電話口で平身低頭、あした／＼と一日延ばしの報いか。

すいと行水際涼し飛はたる。牧童人間の生活様式の変化が、初夏の風物詩の一つを消し去ってしまった。

そして、季節感の乏しさを嘆く人も、あえて自然を取りもどそうとはしない。せめて今年も、市内に生存する螢の飛しようを觀賞したい。そして私たちの忘れものを思い出してみようではないか。